

まちあるきに着目した市街地観光に関する実態調査  
ー京都市における有償ガイドまいまい京都の事例ー

実査日：平成 26 年 10 月 28 日

報告者：財団法人都市化研究公室研究員岩間真二

## 1. はじめに

地域再生において、観光が一つのキーワードとして挙げられる。観光は、外部から人が訪れることによって、様々な消費等を喚起することによって地域経済を活性化するという、地域を訪れるそのものが、人な流れを作り活気づくりを行うという面も考えられる。

さて、地域の活性化という面で観光を考えたときに、旧来では目玉となる施設や地域資源に資源を集中投下して、それをいわゆる観光の目玉として人を集めるということが行われてきていたが、近年、し好の多様化や、インターネット等による情報収集が容易化すると、ある意味一点突破的な観光では、他地域で同様な施設等ができる観光資源としての魅力の維持できる期間が短くなりかねない。

こういった中で、歴史的建造物や地域の歴史といった歴史的資源はある意味、普遍的であり、他地域で同じものはないといった魅力があり、陳腐化がしにくいといった特性もある。

そのようななか、京都市で活動するまいまい京都では京都の地域資源をより細かく一点突破型のガイドツアーを行っている。京都という一大観光地の中で、通常の観光コースにはないツアーを開催することによって多くのリピータを獲得している。本稿ではまいまい京都の事例を調査し地域資源の掘り起こしから見た市街地観光について検討する。

## 2. 京都市について

- 概要

京都市は言わずと知れた一大観光地であり、人口約 140 万人の都市である。歴史的な資源も多く寺社建築等多くの歴史的建造物や史跡が多く存在しており平成 25 年観光調査によれば、年間観光客数 5,163 万人を数え年々増加しており、外国人観光客も 100 万人を超え、観光消費額も 7000 億円に達する、一大観光都市である。

### 3. まいまい京都

- まいまい京都へのヒアリング

まいまい京都へのヒアリングは、まいまい京都事務局の以倉氏にまいまいカフェにて行った。(まいまいカフェは2014年12月に閉店)



ヒアリング場所

まいまい京都は、民間によるガイドツアーを行っている団体で、財政的には個人事業として行われているとの事である。



まいまい京都ホームページ

運営体制は、まち歩きガイド、京のアジェンダ 21 フォーラム、京都市上京区役所、(一財) 京都ユースホステル協会によるまいまい京都実行委員会により構成され、京都ユースホステル協会内にある実行委員会事務局が実質的な運営を行っている。

まち歩きは、参加費が 2000-2500 円程度の半日ツアーを基本として、オーダーツアーも受け付けている。通常のツアーでは 15 名程度の参加者を募集し、およそ 2km 位歩くツアーを行っている。

ガイドは 2014 年は 100 名程度で、コースについては、そのガイドの人が案内できる内容を設定しており、研修などは行わないのが特徴である。つまり、ある分野に特化した内容でツアーを行うことで、ガイドになった方の専門性をいかに発揮しながらツアーを行うものであり、特定分野特化型のツアーであると言える。たとえば後述する当日参加したツアーでは、元生糸問屋であるガイドの方がそのつてを生かしながら西陣織についてガイドを行っており、実際の西陣織の工場内

に入れるなど色濃い内容となっているのが特徴である。

ガイドには、僧侶の方、学芸員の方、大工や、先ほどの生糸問屋など京都ならではの職業の方、地形や特定の歴史に詳しい方など多種多様である。基本的にはまち歩きが中心であるが、中にはお茶屋遊びなど体験型のツアーもある。

ガイドツアーを行うのはまち歩きに都合の良い季節である春と秋に開催し、近年では2013年秋は165コース開催している。スタッフはメイン3名で、有償ボランティア5名、無償ボランティア10名などで行われ、各ツアーに必ず一人は同行し、安全確認や料金の收受、参加者の確認などを行っている。スケジュールはメインスタッフのうち2名で基本的に組んでおり、かなり調整が大変であるとの事。

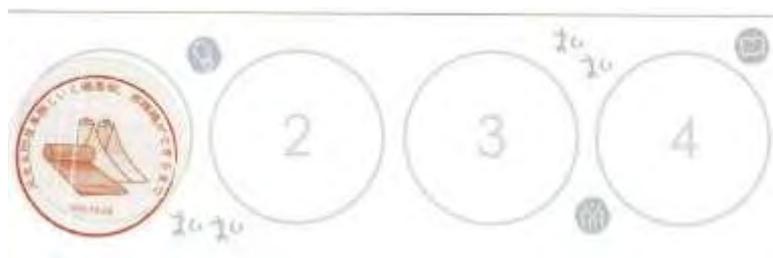
年間のガイド料収入はおおよそ1100万円程度とのことで、このうち半額がガイド料としてガイドに渡されるため500万円程度が実質の運営費となっている。

参加者は京都が約半数、近畿圏内で9割となり比較的近場の人の参加が多いとの事。2013年春シーズンは168コース開催し、ガイド79名、参加者2218名でユニーク参加者が661名で、平均参加回数3.36回であり、リピート率が高いのが特徴である。参加者の平均年齢は40歳強、40代と50代で6割近くになる。

またツアー参加者には、スタンプ帳を配布し、5回参加するとまいまいファン認定グッズを配布するなどリピーターに対する特典も用意している。



スタンプ帳(表)



スタンプ帳(裏)

人数的な問題や体制の関係でツアーの拡大が難しくなっているとの事である。京都以外でもツアーを行っていききたいとのこと。外国語に関しては有料でツアーを行っており通訳案内士等の関係もあり日本語のみの対応であるとの事である。また基本的にはツアー時間が伸びてしまうこともありあまり食事は提供していないが、ツアーにストーリーとしての食事提供の必然性あれば検討していきたいということである。これまでツアーガイドは基本的にボランティアガイドによるある程度固定されたツアーか、費用はかかるが個人ガイドによる案内の選択肢くら

いしかなく、旅行の選択肢を広めたいという思いや、その地に根差している案内と会話することがもっと広まっていけばということである。

- まいまい京都まちあるきについて

実査日において開催されていたツアー「【西陣織】元生糸問屋専務と行く織屋街、西陣織ができるまで～糸染加工から帯地・列地製造まで、織工場に職人さんを訪ねて～」に参加した様子をレポートする。

まず集合場所にて受付を行い、ガイドによる自己紹介や、ツアーの概要について説明後まち歩きが始まる。

ツアーは西陣織の帯のできるまでについてその分業体制や、織り方の特徴、歴史などについて外力のレクチャーが行われ、実際に作業が行われる工場を見て回るという流れとなっている。



ガイドによる事前説明



まち歩きの様子

比較的少人数ではあるがマイクは必須となる。以下各工場に入りそれぞれの方から説明を受けながら移動する流れとなっている。



工場内での説明



糸染め加工



織物工場にて説明

各工場見学後、(公財)手織技術振興財団の運営する織成館を見学後、総括とガイドの方とのだんらんを行いツアーが終了する。



織成館にて見学後、総括

#### 4. おわりに

まいまい京都によるツアーは、他都市で行われているボランティアガイドと一線画する取り組みと言える。基本的にガイドにコースがついている形式で、一般的にコースが先にあってガイドを要請するものと異なる形態をとっている。

そのため、その市街地の特徴や歴史を網羅的に把握することはできないが(京都では別団体によるコース型のガイドツアーがある)、地域の歴史と文化やまちについて、一点突破型テーマによるより深い知識と体験を得られることが大きな特徴である。

今回参加したツアーでも一般的に見学を受け付けていない織物工場をガイドの伝手により実現しており、ツアーに参加しないと体験できないことや、専門家によるガイドのためより深い意味で知識が得られるという特徴がある。

京都において著名な場所についての情報は書籍やインターネット等多く出回っており、前述の面で特徴的なツアーの開催はニーズとして多く存在していると言える。そのことが実際にリピーターを多く生んであることから明らかであろう。

この取り組みは、地域の地場産業のツアーなど地方でも活用できるものであり、最初は一般的なツアーで回り、リピーター向けとして特化型のガイドツアーを開催する選択肢はあり得ると考えられる。そのためガイドの育成というより、ガイドの発掘することが必要になってくるであろう。また少額であるがガイド料を支払うことで一定の担保性と責任が問われそのことが質の向上につながっているのではないかとと思われる。